

男子バレーチームと スポーツ振興で協定

土浦市

バレーボールのVリーグ2部(V2)男子のつくばユナイテッドサンガイアと

土浦市は17日、スポーツ連携協定を結んだ。チームは小学生向けのバレーボール教室の開催や、市内での試合観戦に子どもたちを招待



協定を交わした安藤真理子土浦市長(右)と都沢みどり理事長 同市役所

する。市は活動をPRし積極的に支援する。

サンガイアはつくば市に拠点を置き、2016年から土浦市の霞ヶ浦文化体育会館でホームゲームを開いている。

締結式が同市役所で行われ、安藤真理子市長は「試合ではバレーファンを魅了している。市内はバレー好きが多く、スポーツを通じた活動に大いに取り組みたい」と支援に前向きな姿勢を示した。

つくばユナイテッドサンガイアの都沢みどり理事長は「土浦の地域活性化にも取り組み、小中学生にスポーツの楽しさを伝えていければ」と語った。市バレーボール協会幹部も同席した。

サンガイアは2018年につくば市とも連携協定を結んだ。

記者手帳

○：「チームとして、スポーツ振興や地域貢献をしっかりとやっていきたい」。バレーボールのVリーグ2部(V2)男子のつくばユナイテッドサンガイア。つくば市に続き土浦市と連携協定を結び、都沢みどり理事長は地域貢献へ意欲を示した。

筑波大を原点に2005年の発足か

スポーツで地域貢献

ら18年目。地域でのスポーツ振興は4年目を迎え、バレーボール教室開催やジュニア育成に励む。「子どもたちの試合の迫力を見てもらい、スポーツの良さを知ってほしい」(綿)

○：笠間市に開業したスケートボード場を軸に誘客につなげるため、市内事業者が関連グッズを開発した。このうち陶器販売のきらら館は、陶製のスケートボード・キーホルダーを製作。

鳥居美伸店長は「伝統工芸品の笠間焼とスケボーという二つの世界の融合を目指した」とコンセプトを説明する。

気軽に手に入れられるよう、プラスチック製の入れ物に入ったカプセルトイとして販売される。「ファッション感覚を重視した。楽しい気分になってほしい」。1個500円。(浩)

○：「世の中が平穏で、皆さまが健康、安全に暮らすこと、コロナが退散することを願っている」と話すのは、鹿島神宮の天海尉之禰宜。二十四節気の大寒には、同神宮の御手洗池で、一年の無病息災や厄払いを願う神事「大寒みそぎ」が行われた。

今年は3年ぶりに一般参加を募集。115人が池に入る荒行に挑み、心身を清めた。みそぎを終えた参加者に対し、「前向きに、自分の目標が達成できるよう、1年を過ごしてほしい」と呼びかけた。(篤)